



サカタニ友の会ニュース

# キリンとサントリー 経営統合協議

## ご和算

この見出しは昨年8月号「とんからりん」2ページに掲載したものです。7月14日のニュースに吃驚仰天して書いたかいたものです。ところが大山鳴動しただけで2月7日「ご和算」になつたと報じられました。

サントリーホールディングス株式会社・佐治信忠社長は、キリンホールディングス株式会社(以下キリン社)との、統合本交渉を終了の発表され「当社としては、統合新会社のあるべき姿を検討していくなかで、統合比率をはじめ、キリン社との間に認識の相違があり、今交渉において当社が追い求めている新会社の実現は難しいと判断し、交渉を終了することを決定

しました。」と述べられました。サントリーは、佐治敬三氏が社長時代の昭和38年、父上信治郎氏は「何もいわん。やってみなはれ」と、ビール事業への再参入を応援し、46年目の平成20年12月期にようやく念願の黒字化を達成した。初代信治次郎氏は「赤玉ポトワイン」からウイスキー、そしてビールにも挑戦されたがビールは時に利あれず撤退されている。

麒麟麦酒は、1907年三菱財閥と明治屋の出資による純粋日本国籍、日本資本の新会社「麒麟麦酒株式会社」を設立。戦後、占領下の集中排除法での分割を避けられ、大日本麦酒が東は「日本」サッポロ、西は朝日麦酒に分割された間に、三菱特有の堅実な社風で1時はシェア60%寸前まで業績を伸ばした。

「商号代金決済、値引等々」他の会社より厳しい姿勢で酒小売店の間では「ケチン麦酒」と囁かれるな

投稿では発行者  
株式会社サカタニ  
集西楽・サカタニ  
ファミリーマート  
サカタニ京阪七条店  
〒605-0993 京・  
東山区七条こころ坂下  
・075-561-7974  
URL [www.sosake.jp/](http://www.sosake.jp/)  
E-mail [info@sosake.jp](mailto:info@sosake.jp)  
とんからりんは  
毎月発行の  
会員新聞です  
編集・酒谷義郎  
[yosi.rou@sosake.jp](mailto:yosi.rou@sosake.jp)

から、業績を伸ばした会社です。『楷書オサイド』営業成績を上げた会社。社風は硬軟。成立ちは小企業：財閥系。事業も斬新：保守。(編集者の独断)と大きく違つ二社の統合はやはり無理だつたのだから。以前にこの統合は、巨人阪神の統合のようなものでプロ野球が面白くなる。と書いたが、これでお客さまの「選択肢」は減らなくなつた。先ずは目出度しである。



## 天地人

(てんちじん) は、2009年1月4日から11月まで放送されたNHK大河ドラマ。同名の火坂雅志著の歴史小説を元につくられ、戦国時代人々が自らの「利」を求めて争つた中で「義」の志を胸に、「愛」の一字を兜の前立てに掲げ戦つた越後上杉家の家老・直

江兼統の話です。この「天地人」三文字は辞書によると「松竹梅」などと同様に三つの物の順序や成績の序列などを示す語と宇宙間に存在する万物。世界を形成する要素。だとあります。

何時も空気を吸つて何気なく過している、「地」は人間足元、雨が降ると自分の都合で「天」を恨んだりすることがあります。常に天地は人の上それが無ければ動植物等々は存在しません。昔の人たちは何時も意識していたのだから、朝、東を向いて太陽に手を合わす習慣を身につけていました。

平和になつて経済発展して学問が進み人間生活は外見的には豊かになり

今回の朝粥会は、講師の福田静二様から「懐かしの京都市電」市電が走っていた時代と街を偲ぶ」のお話をきいて写真を見せて



は当店の旧店舗

第62回・2/21開催  
朝粥食べべり会報告  
おしゃべり会報告  
朝粥を食べる前。(9時~9時40分)

いただきました。特に七条通りの東大路から西大路までの写真は皆さまの目が輝いていました。

人の命より「金」が大それた事。お金を得るために「権力」を得ようとする人も増え全ての基準は「金」になりそうです。

今はまだ「お金」お札で具現化されていますが、出し入れは「指紋認証」コンピュータ的決済の中にだけすることに、なるかも知れません。

そんな時代が来れば動物としての人間は存在価値があるのでしょうか？

人類とは何んぞや！人間が壊れない内に思案しなければ...

その過程で本来は、流通の道具で有った「お金」を「人」より「上」に置き【金人地天】と順序をかえた社会をつくるうとします。

その過程で本来は、流通の道具で有った「お金」を「人」より「上」に置き【金人地天】と順序をかえた社会をつくるうとします。

その過程で本来は、流通の道具で有った「お金」を「人」より「上」に置き【金人地天】と順序をかえた社会をつくるうとします。

「お酒のせいで迷惑をかけた」と天下の横綱朝青龍が引退記者会見で言った。オイオイ素面でそれをお言いか？

人を殴つた手は自分の手、酒が殴つたのやない。横綱たるものが、手も足も無いお酒に負けたら引退しなしようがない。

相撲は「心技体」のスポート。心が一番上にある。技や体力の強さだけで無く、「心」を重くみて横綱にすべきだろつ。

歴代横綱で朝青龍ほど立会いに張り手、負けた相手に駄目押をした横綱はない。「心」人格「差」

若若時代を美しく思う。朝青龍個人を責めるつもりはない。政財界他日本否世界中で「勝者」のみ報われ讃えられる。風潮になつていいる。

人・企業・国・全てが勝者を目指す中での歪が、人々の「心」本来ある美しい特性に悪く作用しているのだから。

秋葉原無差別殺人、その他諸々の兇悪事件犯人も幼いとき可愛い子であつた。何処何時何が間違つた結果だろつ。間違つたのは私や貴方が、皆で考える値打ち有る命題だ。

## ーとんつきー

# ヨシィちゃんの ひとりごと



## お釣銭誤り

先日早朝、お釣りに釣りが多かった、バイトの姉ちゃんが入りました。レジを調べた。レジ点検でお申し出の額は不足、その作業をしたバイトにはお金の確認を厳重にする様にと言い、今回は許すが次回に同様のことがあると注意しました。お客様には、そのことを報告し、そのまま納めておいて下さいと申しご了解を戴きました。

## 「現金の受け渡しは、その場限りが大原則」

これは酒卸屋セールスマン時代の苦い経験で得たものです。極く懇意で親しいお得意さんで、「十万円」の集金をいただきました。万札も5千円札もないころ。千円が10枚束を10組受け領収書をお渡しして店に返り、經理に渡すと「一枚足りない」と言います。何処にも寄らずに帰ってしまいましたので先方様に戻り、「一枚足りなかった」と申し出ました。

「義郎はんアンタは10万の領収書くれたで、今更言うてもアキマヘン」と言われまして。何度もお願ひしましたが駄目でした。理屈では理解で

きましたたが、相手が親しいご主人だけに割り切れない気持ち、気分を悪くして店に帰り自分の金で補填しました。千円は今なら5万に相当する痛かった。次回その店を訪問した時、「義郎はん昨日マジヤン大勝ち、配当上げるわ」と千円渡された。「もらえませんか」とお断りしたがその方は「この間の千円不足の理由は此方のミスで判っていたが君のためにあえてその場で千円を渡さなかった」と言われ、「幾ら親しい関係でもお金扱いは注意するように、特に束にしてある場合はなあ」と忠告された。

## 元第一銀行京都支店 中京区馬丸系



五条支店と取引していた。一緒に連れられて行くので祖父に遠いのと云うと「エ工銀行やから」と言った。何でエ工のんき出して帰って勘定すると五円多かった。多いと返しに行ったら銀行は間違っていないと受取らなかった。押し問答したが受けとりやらへん受取つたら銀行に信用のかかわるからやよろう。銀行がお金を間違つたら信用ないもんや。

これは信じて欲しい。生まれた日など若干質問にお応えすると、数枚のカードを切られ、ジーとあらぬ方向に目を向けられ暫し無言。ややつて私を見詰められた。やましい気持ちはないが久振りにドキドキ。血圧が上がったかも。

## その経験から今もお札を(10枚で)束にしません

子供の頃、店は第一銀行。それだけ信用を大切にしていた。73歳が詠むから許される句もある。ときめきが動悸(どつき)にかわる。古稀(こき)の恋。全国老人福祉施設協議会の第6回「60歳からの主張」川柳部門に賀目新聞天声人語より

## 第6回「60歳からの主張」川柳部門 賀目新聞天声人語より

置き場所を思い出せない備忘録と、老いを笑い飛ばす自虐の句も目立つ。角が取れ丸くなるのは背中だけ。遼君のスイング真似(まね)で腰痛めてみたい。名刺抜きの付き合いに慣れるのもひと苦労で、

## 占い師 せいら・タロット占い

銀行やから遠くても行くのや」と云った。この「つり銭」で、ふとその時の祖父の顔を思い出した。近頃の「節度の甘い」銀行に聞かせたい話でアリマセンカ。

「ギャラリーカフェ集」の脇の小部屋を使って「占い」を始められた。余り占いを信じ無い方の人間。占いと「統計と顔立ち体型雰囲気と直感」で判断するも思っている。が、貸主としての「浮世の義理と責任感」もあると占って貰った。

若い女性と小部屋で差し向かいで座るのなんて家内の若いとき以来のこと。本人が言うのだからこの安心感1500円安い。

ふと我に返る時がある。婆(ばあ)さんや茶柱立って何がある。優秀賞は、冷めた視線で。喜寿祝い寿司(すし)に集まり。我(わ)れ孤独。ごちそう目当ての親族を、声ではなく字でチクリとやるのが老境。同様に。子や孫が無理はするなとこきつかう。まあ、使う気にさせる体も素晴らしい。万事、前向きに考えたい。物忘れ嘆く頭のダイエツト

2010年2月15日 朝日新聞 天声人語

以上、毎日送信されて来る「ケメ」通信に掲載されていたものを転載しました。

この川柳作者はワテらの代弁者。句をよんでそれれごとく大笑い。

敗戦国興して老後報われずカラオケで美声聴かせて入れ歯落ち

う関係も。皆が夢見る共白髪の日々にも、かと思えば

ヨシィちゃん

京都&東山  
ぶらりピカリ 21

ここは七条こころ坂  
東山は坂の町

東山と鴨川に挟まれ、二条から稲荷神社近くまで南北に細長い東山区。そのため区内には東から西に下る細くて坂道も多い。祇園の八坂神社の名は「八」を

多くの数の略(八百万神「ヤオヨロズカミ」)で付いた神社名だろうか?。坂と同じく東山の峰々を水源とした川も多かった

北から菊谷川、清水川、音羽川、一の橋、二の橋とありそれらの川の支流も有った。今は殆んど暗渠になっている。



坂の中では、五条坂が一番有名。京阪五条駅から西の五条通りのと分けた名で東大路通(五条坂交差点)まで、少

し東で途中で清水道と茶碗坂別れる。「茶碗坂」の名は戦後になって観光客が清水寺へ行く道として利用されるようになって付けられた。

清水寺へ向かって清水道(松原通の東端部分の別名)までの坂道は何故か「坂」が付かない。五条坂は戦時中に五条通りが強制疎開で南側の商店、家屋取壊

されて今の姿になったが昔は今の「錦」をしのぐ商店街だった。問屋町通りは大店が軒を連ね「中央市場」の賑わい有ったとゆづ。五条下がるの洛東遺訪館や半兵衛鉄さん大店の面影を見られ、問屋町にか市場の神様である「市姫神社の分社」もある。



清水付近にある「産寧坂(さんねいざか)写真(ま)は三年坂(さんねんざか)とも呼ばれ東山の観光地として有名である。狭義には音羽山清水寺の参道である清水道から北へ石段で降りる坂道というが、公式には北に二年坂までの緩い起伏の石畳の道も含み、一年坂を介して北にある八坂神社、円山公園、高台寺、法観寺(八坂の塔)と南にある清水寺を結んでいるため、観光客が絶えないところである。

通称「女坂」は東山七条から中村玉緒さんも通った京都女子学園にいたる坂を言つ。その南智積院南側に「瓦坂」があるがその付近に「京都美大」があった時、「男坂」と言われたこともある。京阪七条から東、東大路までを「通称・こころ坂」といつ。「女坂」の下に「心坂」で女心と洒落た様だが、博物館、三十三間堂・智積院等々の物質でなく

心を磨く施設と「京都女子学園」も「心の学園」と言われているところから当地の「七条鴨東(おーとつ)」商店街が名付けてものである。当店で開催し続けている落語会「はこころ坂、楽々落語会」の名前で開催している。「月光仮面」のように誰が付けたか判らないのではないが、もうチョット有名にならないと「洒落」にもならないと笑われるだろう。「落語は笑って戴きたいが」...

今朝、何時ものように5時前に起きタワシ履帯と体操をしながら「ヨタとオリッコ」を聴きながら「ト」を見ていた。そして7時、店に何時も送ってくださる「ケメコ通信308号」を見た。自らはナシヨナリスでもブルジョアでもないが「ケメコさん」と同じ日本人を感じて、急遽以下に転載した。

「ぼんー泣いたらあきまへんー!」  
「豊田の倅が泣いたらあきまへんー!」

眼鏡の奥の、不安に揺らぐかのよつに辺りを見回すまなざし。公聴会を終え代理店会でのメモを読みあげる声がかみ上げる感情に耐えきれないように途切れ裏返る。

「ワオッーシャパードズスチューピットカーー!」  
「オンタアーニッザンーティヨアーマアズダアー!」  
「の年大阪万博にアメリカ力のピッ

ツバゲの片田舎からやってきたヤンキー娘たちは日本の車をみてそう驚っていました。

雅の世界の牛車や大八車や人力車の二輪の歴史しかない我が国です。アメリカには荒くれ男のカーボーイがぶっ飛ばす駅馬車があります。カウスター走行やドリフト走行もお手のものものれっきとした4輪車です。

ヨーロッパには王侯貴族のお姫さまなどが乗る御者付きの大型豪華な4頭立ての馬車があります。古くはベンハーの時代の戦車の馬車もあります。

乾いた砂漠のような街道を馬に鞭をうってぶっ飛ばすことなど考えられなかった我が国がたかだた40、50年の歴史で世界の車工場を作り上げたのですからそれは生半可の努力ではなかったのだでしょう。

20年前に車そのものを発明したアメリカは世界の自動車王としてのプライドがあります。ましてや車は日々の生活に欠かせぬ移動手段です。

車を持っていることが当たり前で車を持ってない下層階級にはほとんどに住みにくい国なのです。それにしても世界中がまるで狂信的なナシヨナリズムに感染し

て発熱しているのではないかと思つほどのメディアの洪水です。

今日はまたオリンピックのリングで絶叫するアナウンサーの声。世界中に中継されることでしょう。国家じゃないのですよ、個人なんです。

五輪憲章には「オリンピック競技大会は個人種目または団体種目での選手間の競争であり国家間の競争ではない」という文言は明文化されています。

多様な生物が棲み、多様な歴史があり、多様な文化があります。その多様性を認めることが今緊急の課題として必要なことです。我が国の食文化もそんな長い歴史の中で育まれてきた多様な文化です。

ところが最近の我が国の若者の味覚が変わってきているらしいです。味覚のグローバリゼーションなんて許されません。今夜も脂ののったお刺身を口にいれその脂をきゅっと日本酒で洗つ。

杯を重ねることにその酔いはたゆたゆと包み込まれていく。きやああーたまりまへんあー!

「ケメコ」さんはヤッパリ作詩家、無断転載お許しを。

# 酒屋で生きて 生かされて

## 第四十六話 キリン・サントリー

### 戦後のビール業界 統合撤回から見る

私は「酒谷」店名も「サカタニ」で酒屋。祖父が創業し間もなく百年、名刺交換をしますと「酒屋で酒谷さん工工お名前」と言わながら満76歳になりました。

この「酒屋で生きて生かされて」欄の整理がまだ出来ない時、キリンとサントリーの統合白紙と言う大ニュースが入りました。

元々この統合話には、酒業界で57年。酒卸問屋18年、酒小売15年、酒有リコンビ二でギヤラリーホール合せ24年と業態は代えながら来た人間で「違和感」が有りました。

酒卸の時代は、朝日麦酒の特約代理店で、サントリーの特約店でもありました。

サントリー 麦酒発売1963年(昭36)前、まだご健在だった山本為三郎(朝日麦酒社長)の英断で、朝日特約店にサントリービールの併売を承諾されたことを知っています。

戦前、当時もこの両社の大口取引先・松下商店(現伊藤忠食品)他の何社かの卸店のご仲介や、サントリーの初代鳥井社長と朝日麦酒山本社長との友情から生まれ販売ルートの併売許可だったのでしょ。

朝日麦酒の特約代理店制度は、地盤の関西は他社の麦酒併売(名古屋以西)を許さないもので。壽屋(現サントリー)はトリスからオールドまで洋酒では強力でしたが、ビールの販売では戦前に酒屋仲間同社の「カスケード麦酒」は「貸すケード売れん麦酒」と揶揄され「オラガビール」も不振で販売は中止、63年(昭36)ビール事業から撤退をした



ほろにがい経験で朝日のルートを無視し出来なかつたのでしよう。また、商売でも人情が豊かな時代だったので。そのことから、アサヒ(住友)でなく何故キリン(三菱)と強く違和感をもみました。

「朝日」が併売を許したので私もも気兼ねなく、朝日、サントリー両社のビールを酒小売店に販売出来ました。その数年前(昭35?)卸や屋時代の当社の株主であった協和発酵(現キリン協和)が、今の発泡酒のよつな「ラビール」を発売し、朝日の次に多い株を所有して貰って断れずそれを京都市内で一社当社だけ販売しました。朝日から強烈なパンチが返り困ったものです。「ラビール」は失敗で販売中止になりました。続いて伏見の宝酒造がビールに挑戦(昭32)しました。然し関西ではビール三



社のルートを使えないと販売が難しい時代、しかも「宝」には麦酒大瓶(633ML)の共用までを許さず、已む無く宝は800ML瓶(現中瓶)を新たに作り市場に出し懸命の努力しました。だが実ることなく向日町のビール工場を麒麟に譲り69年(昭42)麦酒事業から撤退されました。その後、元々強かった焼酎から「酎ハイ」という新ジャンル

ハガキか手紙が迷う？  
受験、就職のシーズンです。知人や親戚で方に「メール」でお祝いを送るにはチョットと嫌。ヤツパリ手書きになりますね。さて、その時ハガキ、手紙で送るか迷います。そこで調べてみました。

基本的にハガキは略式、目上の人に改まってお願いする等は「封書」が望ましい。だが合格や就職の知らせの場合、転居、結婚、出産など、早くお知らせしたい場合はハガキで差し支えない。  
お祝いお願い等、かつては毛筆、万年筆を使う形だったが、どちらも最近を使う機会が少なくなっている。水性ペンやボールペンでも良い。鉛筆はさけるように。  
封書は縦長の場合は「綴じ目」x等をする。横長の洋風は不要。只、洋封筒を縦向きに使う場合は、和封筒縦長同

ルを開発、日本酒は「松竹梅」に注力、バイオでも躍進されています。松茸の人工栽培研究をされていると聞くが成功が待ち遠しいものです。(注) 朝日とアサヒ、表記を二つ使用し書いています。私の中では「スーパードライ」発売前を漢字、後をカタカナ。全く別会社の感じなのです。記憶のママ書いています。詳細な検証や調べは出来ていませんし非難する気は毛頭ありません。ご理解ください。

じく「封じ目」を入れることが良いだろう。

### 郵便ポストは 何時から赤い



「ポスト」日本の郵便法では「郵便差出箱」が正式の名称。ですから「ポスト」に手紙などは「投げ込む」は持つての他、差し出して配達をお願いする箱という姿勢で使わないといけません(笑)。「それ様」は明治34年ころ当時は外灯も少なく夜見ずらく、風雨に強いので赤色鉄製の円形と時の政府が決めたもの。日本は赤ですが、アメリカは青、ドイツ・フランスは黄、中国は深緑が使われています。  
今月も何時も通り原稿不足で困り、この欄のこんな文で埋め込みました。皆さまのご投稿を節にお願い申し上げます。 編集者・拝々

### 編集後記

法然院さん  
での勉強会が

キツカケで、梅小路公園水族館反対の運動に参加しています。同封した「アカン節」と対案の歌で理由は書きました。最初は積極的でなかったのですが、水族館用地を見て、その広さに驚いたのと、今までそれが只の「空き地」であつたことに呆れました。  
この土地を公園が出来てから何も使っていないなんて、なんと京都市は勿体ないことをしゃはるお役所やなあと感づいたのです。  
朝粥会で見てもらった鹿児島県の過疎村「やねだん」の村おこし、最初の一人が動き出し荒地、廃屋を活用、活気ある村にした話。泣けました。ゴミの豊島も変わって来た。それらの所は「他人の禪」でなく「今ある自前のもの」を自力で行政を飛び越して活用しているのです。お金も生み出し、人も子供も増えている。なんでオリックスどうしてイルカシヨウ水族館という発想になるの。「他人(オリックス)に頼む前に、京都市民を頼りにしたら。  
それを頼りにならんと思ふなら何か言わんとす。勝手にしておしやす。そやけど市電地下鉄高さ制限緩和などと同じ様には行きません。決定者責任は取ってや。3匹めの泥鰌は、いやらしまへんえ。